

# いずみニュースレター

発行元：社会福祉法人いずみ 東京都東村山市富士見町3-4-16

TEL:042-394-1868 平成28年10月発行 第5号

社会福祉法人いずみ 理事 江崎 安幸

## 就学相談と転学相談

「あゆみ幼児部」や「ひまわり」の年長さんにとって、期待に胸を膨らませ来年4月の入学を心待ちにしていることと思います。障害のある幼児・児童・生徒が通常の小学校・中学校ではなく、区市町村の特別支援学級や通級指導学級（教室）、都立特別支援学校へ入学を行う際に行う相談業務を就学相談と呼びます。

来年入学を希望されている皆さんは、お住まいの市教育委員会で、すでに就学相談を済ませられた方も多くと思います。特別支援学校を希望されている場合は、今後就学希望先の学校で東京都の就学相談が行われることとなります。

転学相談とは、児童・生徒の障害の状況が変わった時、地域の特別支援学級から都立特別支援学校へ変わることや、その逆の場合、若しくは病院入院に伴い病院内で教育を行う場合などの相談の事です。入学した学校が教育のスタートですが、学校の変更により、途中でより良い環境を選択することができることをご理解ください。

最近よく聞く言葉で「合理的配慮」があります。障害者差別解消法に、詳しく説明がされています。簡単に言うと事業者の過度な負担とならない範囲で、バリアフリー、人的支援、情報アクセシビリティの向上等の環境整備を、個々の障害者に対し、その状況に応じて個別に実施される配慮の事です。この法律や各種通知によって、就学相談や転学相談が規定され実施されます。皆さんの就学相談に合理的配慮はどのように反映されていますか。

入学に関わる就学相談については、平成27年度に区市町村教育委員会が受付をした就学相談（小1・中1入学希望者）の総件数は、7,928件で、そのうち認定特別支援学校就学者として、東京都が受け付けた件数は874件ありました。10年前と比べると区市町村受付件数は約2倍、東京都受付件数は約1.4倍になっています。児童・生徒数が減少している中であって、障害のある子どもたちが増えたのではなく、昔も潜在的需要があった子ども達が、特別支援教育のハードルが低くなり、専門的指導に期待を寄せて就学している証ではないかと考えます。教育と福祉の一貫した支援により、子供たちの幼児から成人までの暮らしを皆様と一緒に支えたいですね。

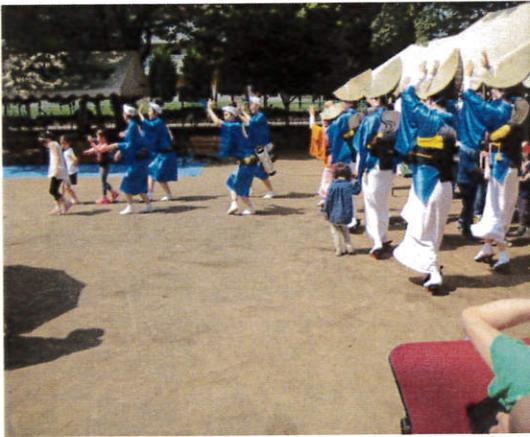
お祭り特集

# 第9回合同祭り

平成 28 年5月15日(日)あゆみの家と東村山生活実習所さんとの合同祭りを行ないました。お天気にも恵まれ、上尾チンドン屋さんの練り歩きからスタート！

和太鼓・アフリカンドラム・久米川連さんの阿波踊りなど、数々のイベントがありました。焼きそば・たこ焼き・今川焼きなど食べながら、音楽に乗って盛り上がっていました。

毎年恒例のビンゴ大会には、参加者は、約150名になり1等のディズニーランドチケットをめぐって笑顔の方、真剣に番号を聞いている方等大いに盛り上がり閉幕しました。



(担当 成人部:岡元)

# 第15回合同祭り

平成28年9月11日(日)、「スマイル」では隣接するグループホームそよ風、やすらぎ荘とともに第15回合同夏祭りを開催しました。例年7月下旬の開催でしたが、今回は猛暑対策のため9月に変更し、いつもよりたくさんの方が集まりました。今年も市長をはじめ、市議の方々も来場して下さいました。

子どもみこしでは、真っ赤な鯛のおみこしを担いで近隣を一周。焼きそば、フランクフルト、今川焼などの美味しい物を食べたり、盆踊りやフラメンコ、鼓道会による和太鼓のステージ企画で盛り上がりました。東村山社会福祉協議会のイメージキャラクター‘ぼんたくん’も遊びに来てくれ、一緒に盆踊りを楽しみました。

お祭りの様子



ステージ企画



(担当:「スマイル」 小山)

# つばさ祭り

平成 28 年9月18日(日)ライフサポートつばさ敷地内で「つばさ祭り」が行われました。ここ2年ほどお天気に恵まれたお祭りでしたが、今年は秋の長雨にあたってしまいました。しかし、お祭りに参加した利用者、ボランティアさん、職員の熱気で活気のあるお祭りとなりました。利用者の方と地域との交流を目指す「つばさ祭り」は、地域住民の方、保護者の方々、近隣の高校の協力、近隣施設など様々な方に支えられながら開催されています。お祭りの冒頭では、東村山市の渡部尚市長からお祝いの言葉を頂きました。地域の方に親しまれる施設になれるよう、これからも頑張っていこう！と利用者の方と思いを一つにしたところです。

午前に東村山西高校の箏曲部の演奏、女子ダンス部のエネルギッシュなダンスが行われ、午後は「♪音楽ボランティアネットワーク 音種♪」という演奏グループによる、歌と演奏が行われました。音種の代表の成松さんは演者と聴く方との垣根がなくなるような、音種の活動を一緒に過ごした方たちが、それぞれの感じ方で演奏を感じて欲しいとのことでしたが、魂のこもった演奏に多くの方が時間を忘れて聞き入っていました。模擬店のメニューも昨年よりも趣向をこらし好評で、施設利用者が作製する革細工の体験コーナーなど子供たちに楽しく参加していただきました。あいにくの雨でも昨年と同等の来場者に恵まれ、成功に終わったお祭りとなりました。



「音種」演奏風景



「音種」の紹介を漫才で行う利用者・職員



(担当 つばさ:外山)

# 硝子戸の向こう

## アンコンシャス・ヒポクラシー（無意識の偽善）

### —夏目漱石の虞美人草から—

漱石の小説「虞美人草」を読んだ方も多と思います。社交的で魅惑的な美人の主人公が、真面目な青年を誘惑し、翻弄します。

彼女は本当に青年に好意を持ったわけではなく、その様に見せかけて相手が本気になって乗って来た処を見計らって、突き放すという複雑な行動をとります。しかもその行動は、彼女自身が自覚している訳ではなく、アンコンシャス（unconscious; 無意識）に巧妙に装う、いわばヒポクラシー（hipocrisy; 偽善）だと漱石は言います。

ところで、先般の津久井やまゆり園殺人事件は私自身、重度の障害者の親でもあって、心の底では、犯人に対し、何とも言えない不快で複雑な気持ちがずっと、張り付いたままです。その一端をお話したいと思います。

犯人は、重度の障害者は生きている価値は無いと断じ、国や家族に代わって救世主として、安楽死を実行したと。ナチス・ドイツの安楽死政策を参考にしたとも聞きます。

ナチス安楽死政策は、アメリカの不妊手術や中絶を認めた「中絶法」をベースとしており、こうした優生学的思考はスウェーデン等ほかの国々でも見受けられ、日本でも現在の「新型出生前診断」制度では、当事者の自由選択といえども、実態的には社会は、命の選択を許していると言えなくはありません。（朝日新聞 8月

コラム月間安心新聞 神里達博氏執筆記事等を参考）私たちは知らず知らず、アンコンシャスに他者の存在を否定する考えに染まりつつあり、時代も再びこれを許す方向に向かいつつあると指摘する向きもあります。

私たちの身近でも、最近では、他者に対する遠慮のないヘイトスピーチが堂々と罷り通ったりして、不機嫌さをストレートに表現し、イライラ感を爆発させる風潮が目立ってきています。

これらは、生か死か、敵か味方か、正か邪か、という単純で極端な二元論を基調としていますが、やまゆり園事件犯人の言動も同様の様に思われます。

当人は、自分こそが、実は、社会的な問題児であることを自覚しながら、それを闇の中に隠し、大真面目に正義を果している如く仮面をかぶり、自らを騙し続けているものの、それをアンコンシャスというよりも、うっすら認識している二重の偽善者ではないか、そう考えた方が、私にはよほど納得がいきます。

犯人は、精神科医療の対象に逃げ込んでしまうのか。それこそ日頃、精神疾患などで苦しんでいる真面目な人々には、誠に迷惑な話です。きちんと司法の下で裁かれるべきでしょう。

理事長 福岡 憲二



食事に関して1番相談が多いのは偏食です。なぜ、偏食が起きるのでしょうか？

偏食にも色々あります。緑色などの特定の色の野菜が苦手、特定の味を好むがそれ以外は食べられない、あるメーカーの物しか飲まないなど様々です。その理由について今回は「お口の影響」、「感覚の影響」、「認識の影響」の3つに分けて考えてみたいと思います。



#### ☆「お口の影響」

柔らかい物なら食べることが出来るけど、硬い物や大きなものは食べない場合は咀嚼する力の問題かもしれません。また、噛むために舌で奥歯に食物を乗せることが難しい場合もあります。咀嚼だけではなく、飲み込む力が弱くうまく飲み込めないことで特定の物しか食べない（食べられない）可能性もあります。その人に合った食物の硬さ、形などを知る必要があります。



#### ☆「感覚の感じ方の影響」

肉は嫌いだが、焼き肉のたれ味にすれば食べることが出来る「味」の問題。べちゃべちゃしたものは苦手だが卵でコーティングした食感にすれば食べられる「食感」の問題。特定の色の野菜は食べられないという「見た目」の問題。コリコリする音が苦手な「音」の問題。その他にも「匂い」、「温度」が関係することがあります。

感覚が敏感な人はコップ1杯の牛乳にスポイトで2滴の水が入っていることに気づくそうです。一般的な味覚の私たちには想像もつかない感じ方があると思えば、食べられないものに対する配慮が必要です。



#### ☆「認識の影響」

「ハンバーグはA社に限る」、「〇〇は絶対に食べない」というこだわりの場合もあります。自宅であれば何でも食べるという「慣れ」の問題。逆に学校では食べるけれども自宅では食べないなどの環境の影響を受けることもあります。空腹や食べたい気持ち、心穏やかな環境もポイントの1つです。



#### ☆まとめ

偏食というと「〇〇しか食べない」という相談をよく聞きます。人には多かれ少なかれ好き嫌いがあります。大人でも「トマトが苦手」、「椎茸が食べられない」等あります。実は偏食が問題というよりも「偏食により様々な事に制約が出てしまうこと」の方が大変なのです。色々な物を食べることを目指しつつ、偏食にならざるを得ない本人の困難さに寄り添い、偏食の背景を考えることがスタートです。そこからその人に合った方法を試行錯誤していくのですが、食事は本来楽しむものであり、楽しめる環境が必要です。

著者自身は以前、勤めていた職場で上司から「食事を支援する人が食べ物に好き嫌いがあるとは・・・」と言われてから好き嫌いがなくなりました。きっかけはどこにあるのかわかりませんね。私達の考え方、受け止め方が偏らないよう気をつけたいですね。

## 今後の予定 第3回いずみコンサート 開催のご案内

出演者紹介 山口 とも 日本廃品打楽器協会会長 打楽器奏者 写真家



つのだ☆ひろのアシスタントとして音楽の世界に入る。1980年「つのだ☆ひろとJAP,S GAP,S」でデビュー。解散後、フリーのパーカッショニストとして中山美穂・今井美樹・平井堅・石井竜也・サーカス、また2012年には狂言師の大倉基誠、2013年には石川さゆりなど数々のアーティストのツアーやレコーディングに参加。

95年の音楽劇「銀河鉄道の夜」をきっかけに廃品から様々なオリジナル楽器を作るようになる。おたか静流とのスピリチュアルなライブパフォーマンスやロックの中山ラビ、アヴァンギャルドジャズの三宅純等活動の幅を広め、04年には日本演芸協会の福岡詩二氏から打楽器コメディアン”の称号をもらい、浅草東洋館に出演、好評を博している。03年4月から06年3月までNHK教育テレビ「ドレミノテレビ」に“ともとも”の愛称でレギュラー出演していた。

### 上田 道子

法人いずみ各事業所を始め都内・近県の知的障がい児・者施設及び高齢者施設で音楽療法講師を務める。

日野市社会教育センター(歌の会)講師、武蔵野音楽大学声楽科卒業。日本音楽療法学会認定音楽療法士。



### いずみコンサートについて

いずみコンサートは、直接演奏者から伝わる音の響きを五感で感じ、そして楽しめる機会の提供を目指して、音楽療法士の上田道子さんにご協力いただき実施。

各事業所の利用者やご家族の方々が共に楽しめるコンサートを開催いたします。

### 社会福祉法人いずみとは

平成17年3月東村山市地域の肢体不自由の当事者、親の会(あゆみの会やせきれい会)、関係者が団結し社会福祉法人いずみが発足。平成28年現在、生活介護事業所2か所、児童発達支援事業2か所、居宅介護等事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業など、9事業を運営しています。いずみは、障がいの当事者や家族が、安心して利用できる福祉サービスを永続的に提供する事を目指します。

開催日時 平成28年11月26日(土) 会場：富士見文化センター1階ホール  
開演14:00(開場13:30)

※会場駐車スペースが少ないため車以外の交通機関や乗り合せ等ご協力お願いいたします。

※東村山西高を駐車スペースとして利用させて頂いてもおります。(徒歩約7分)

※問い合わせ先 TEL 042-394-1761 (ライフサポートつばさ)

来場希望の方は申込用紙に記入の上、職員へお渡し、又はFAX(042-394-2066)にてお送りください。

### 第3回 いずみ コンサート 申 込 書

お早めにお申し込みください

所属	お名前	ご住所	電話番号	車いす 利用有無	大人、子ども 介護人等	駐車場 利用有無

★締切は11月14日(月)です。遅れることのないよう協力お願いします。

申込集計後、会場定員を超えた場合、人数調整を行う場合がありますのでご留意ください。

車いすで来場の方は会場スペース把握の為有無の記載、駐車場利用予定の方はその有無をご記入ください。

社会福祉法人いずみ創立 10 周年記念誌完成しました！！

更なる高みにむけて  
社会福祉法人いずみ  
創立 10 周年記念誌



編集後記

早いもので夏から秋へと季節を感じられる陽気になりつつあります。草花も秋のものを目にする機会が増えてきたと思います。今年は残暑も短く、少し肌寒い日が多かったと感じます。これから、寒い日が増えると思いますが、どうか、皆様の健康が守られますように心よりお祈り申し上げます。

(成人部、池田、岡元)